

# 雪まるかじりツアー

～とことん！雪あそびコース～

2021年1月4日（月） ～ 1月6日（水）

IN 兵庫県立兎和野高原教育センター

	午前	午後	夜
1日目	施設に向け出発	雪遊び	キャンドル作り
2日目	雪上運動会	雪像づくり	七輪ファイア
3日目	片付け、そり遊び	施設を出発・解散	

一日目： 各集合場所から尼崎に集合した後、グループごとにバスに乗り、兎和野高原へ出発しました。施設までの道中では、三日間一緒に過ごすグループで自己紹介をしたり、会話を楽しんだりする姿が見られました。バス乗車前は緊張した面持ちの方も伺いましたが、施設到着時には、晴れやかな表情をされていました。施設に近づくとつれ、雪景色になっていきメンバーの期待もとても高まっていきます。施設到着次第、グループごとに昼食を済ませました。昼食後はいよいよ活動が始まります。まずはスキーウェアの着方を学びました。その後は、自分達で初めてスキーウェアを着ました。初めて着用されるメンバーは四苦八苦しつつ、グループのメンバー同士で助け合いながら無事に全員着用することが出来ました。準備が完了すると待ちに待った雪遊びです。雪遊びのルールもしっかりと守り、グループごとに遊びました。雪に飛び込んでみるグループや、早速雪だるまを作るグループなど、グループによって様々な遊び展開をされていました。「まだまだ遊びたい!」、「楽しい!」と楽しんでおられる声を沢山聞きました。雪遊びを終え、施設に戻り、施設の使い方の話を聞き、夕食後まではお風呂の準備や寝具の準備をして過ごしました。夕食後は、翌日の七輪ファイヤーのためのキャンドルを作りました。グループごとに一色の色のクレヨンで削って作ります。削ったクレヨンを溶かした口々に混ぜると「わー!」と歓声があがるほど夢中になっておられました。キャンドル作りの後は、お風呂に入り、次の日のために早めに就寝しました。

二日目： 昨日より、少し気温が下がりましたがメンバーはとても元気です。「今日は、何をするの?」、「たくさん雪遊びがしたい!」と元気な声が沢山聞かれました。朝食後は、外に出るための準備をします。サスペンダーを忘れられているメンバーもチラホラおられましたが、グループで声を掛け合い、みんなで準備を完璧にしました。午前中は、「雪の運動会」を開催しました。雪ならではの競技や、普段の競技の雪バージョンなど様々な競技を楽しみました。途中の雪合戦では、みんなでルールを考え、みんなで楽しむためにルールを変更して行いました。最終競技終了後には、「まだまだしたい!」という反応もありましたが、施設に戻り午後からの準備をしました。雪で作りたい作品をグループごとに考え、完成予想図を作成しました。昼食後は、いよいよ完成予想図をもとに作成をします。スコップやバケツを使い、雪を固めたり掘ったりグループで力を合わせ完成を目指します。気温が朝よりも下がり、吹雪く中、休憩もしつつ全グル



ープ完成させることが出来ました。施設に戻り、完成図を作成しました。完成予想図と完成図を見比べて振り返りもしました。夕食まで時間があつたので、グループごとで頑張ったポイントの発表を行いました。洞窟や、かまくら、お城などそれぞれのこだわりが詰まった雪の造形が完成しました。夕食後は、メンバーも楽しみにしていた七輪ファイヤーです。一日目に作ったキャンドルに火をつけ、七輪を囲み、焼餅やマシュマロを食べました。普段は出来ない夜の雪の中でのもちやマシュマロは、いつもより美味しさが倍増です。あつという間に時間は過ぎ、施設に戻り、入浴を済ませたら、沢山遊び疲れたのでしょう、すぐに眠りにつかれました。



三日目： 最終日の朝は、雪遊びに行くまでにやる事が沢山あります。まずは朝食を食べ力を蓄え、三日間お世話になった施設の清掃、荷物の移動、寝具の片付けなどグループで手分けをして行いました。全てが終わった後は、最後の雪遊びに向かいます。最終日は、“そり滑り”を楽しみました。初めて挑戦するメンバーはリーダーと一緒に滑り、徐々に慣れてきたら一人で滑れるようになっていました。少し斜面が急だったため、安全を考慮して平地で雪遊びをするメンバーとそり滑りを続行するメンバーとに分かれました。施設に戻らなければいけないギリギリの時間まで雪遊びを楽しみました。施設に戻り、みんなで食べる最後の昼食を取りました。昼食後は、みんなの荷物をバスまで運んだり、最後の片付けを行ったりしました。施設の方に感謝の気持ちを伝え、名残り惜しむ中雪景色を後にしました。バスの中では、DVDを鑑賞されている方もおられましたが、疲れて休むメンバーも多く見られました。



#### <キャンプ総括>

昨年の暖冬が嘘のように今年は辺り一面に雪景色が広がっており、全ての活動を予定通り行うことが出来ました。沢山の雪で活動出来る嬉しさの一方で、不安も感じました。雪遊びは、楽しいばかりではなく、危険とも隣合せです。だからこそ、楽しむための最善の安全を確保していくことがより大切だと感じました。そして、楽しむためには様々なルールを守っていくことも大切です。今回のキャンプ中でも皆さんに伝えました。大きなケガや体調不良がなく終えられたことは、メンバーの力があってこそだと思います。これからも「楽しいこと」を行う為にみんなでルールを考え、守っていきたいと思います。最後になりましたが、コロナ渦の中、ご参加いただき誠にありがとうございました。  
(橋本 里佳)